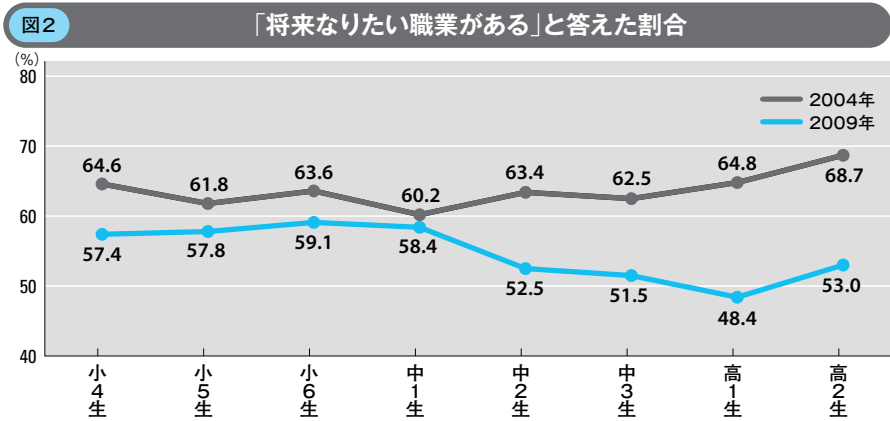
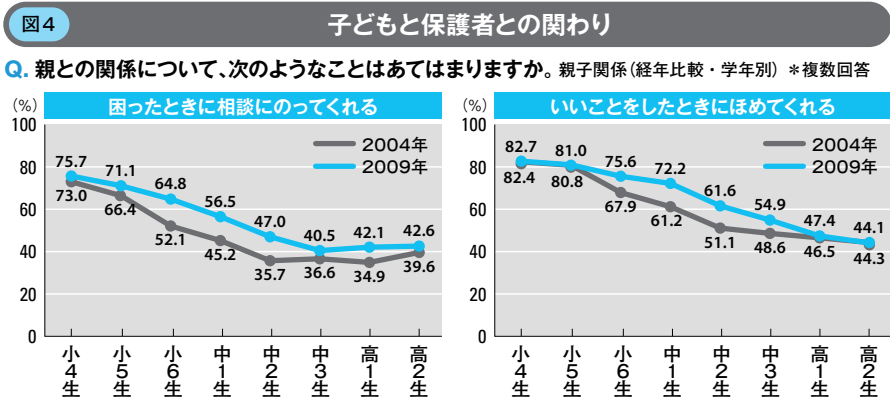
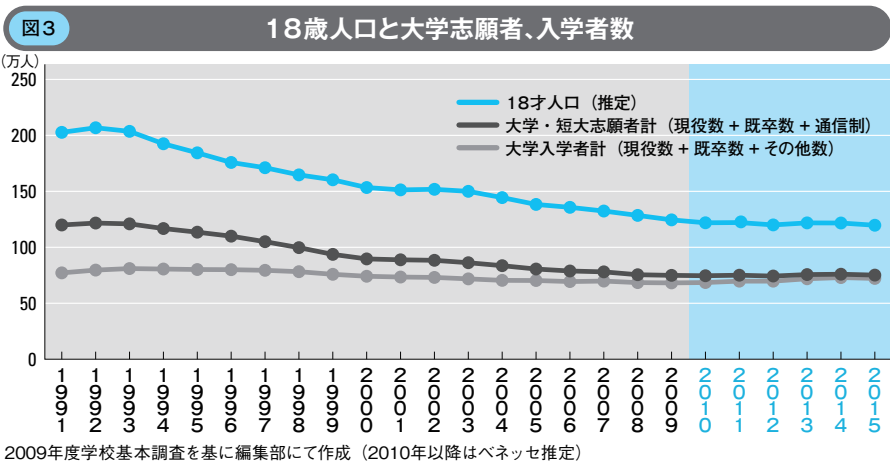


出典／Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009年)



出典／Benesse 教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」(2009年)



半数以上の高校生が  
勉強する意味が分からない

小学4年生から高校2年生までの学習の取り組み方を見ると、過半数の高校生が勉強する意味が分からず、勉強する気持ちがわかかないと回答している(図1)。将来なりたい職業がある高校生は5年前と比べて減少している(図2)。こうした実態の背景として、18歳人口が減少し、大学入試全体が易化傾向であること(図3)や、高校入学前までの親子の関わりが強くなっていること(図4)なども考えられる。

PISA調査によると、日本の高校生の読解力は低下傾向である(図5)。読解力は企業採用時にも重視されており、約半数以上の企業が重要だと回答している(図6)。また、9割以上の企業が重視している力は、社会人としての常識・マナーやチームワーク力である。

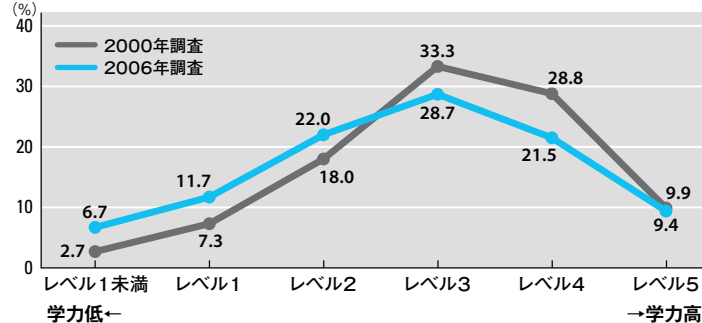
図5

PISA調査における日本の結果

■ 2000年調査と2006年調査(読解力)の比較

	2006年調査	2000年調査
日本の得点	498点	522点
OECD平均	492点	500点
OECD加盟国中の順位	12位	8位
全参加国中の順位	15位	8位

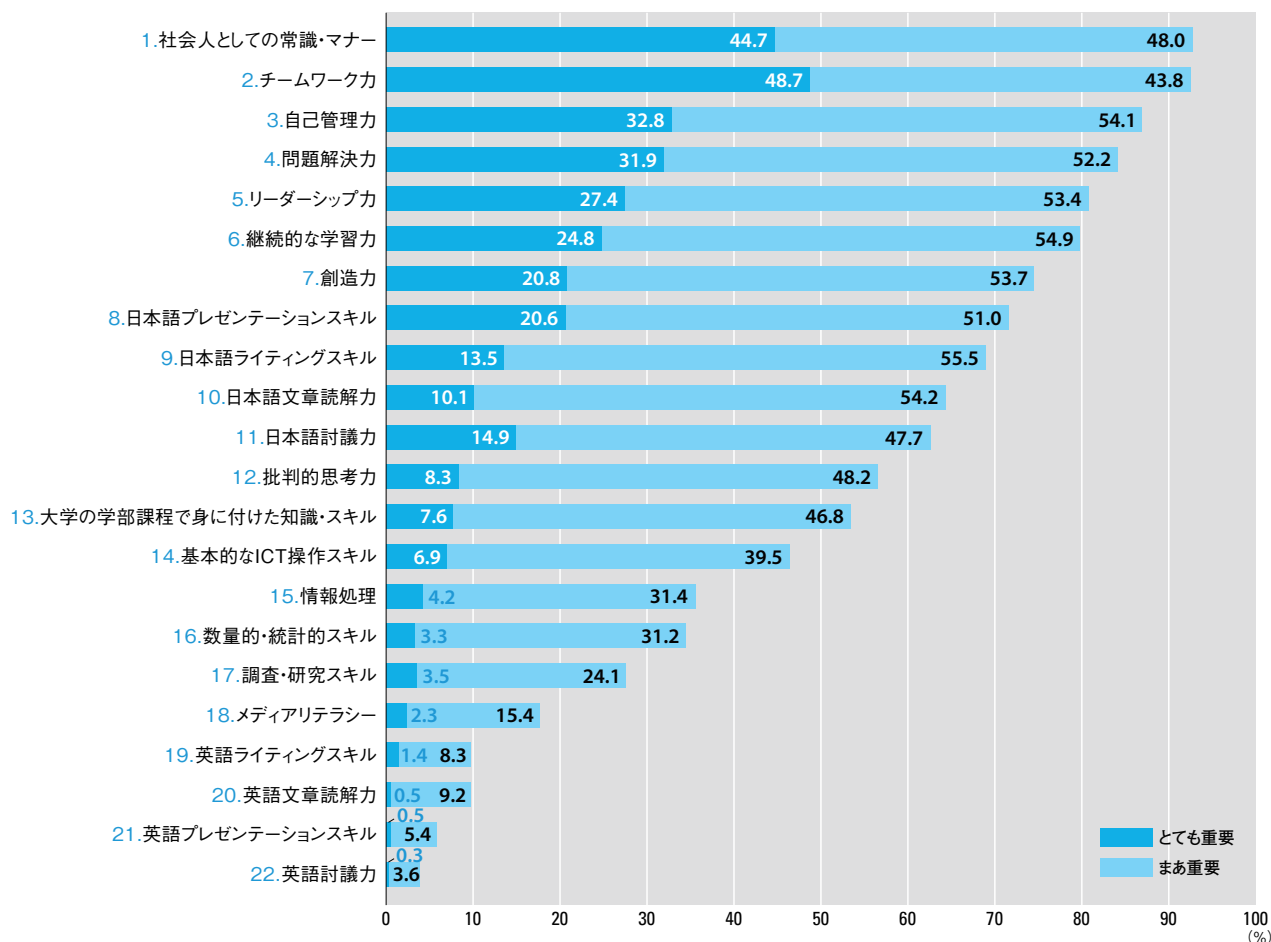
■ 2000年調査と2006年調査(読解力)の比較(レベル別の割合)



出典 / 「OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2006年調査国際結果の要約」より抜粋

図6

企業が大卒者の採用時に重視するスキル



出典 / Benesse 教育研究開発センター「社員採用時の学力評価に関する調査(企業対象)」(2008年9月)  
\* 文部科学省委託「大学卒業程度の学力を認定する仕組みに対する調査研究」(2008年12月) 所収